

2009. Hybridization and the evolution of invasiveness in plants and other organisms. *Biol. Invasions*. 11, 1093–1105.
- Sloop C.M. *et al.* 2009. The rapid evolution of self-fertility in *Spartina* hybrids (*Spartina alterniflora* × *foliosa*) invading San Francisco Bay, CA. *Biol. Invasions*. 11, 1131–1144.
- Tominaga T. *et al.* 1989a. Geographical variation of *Imperata cylindrica* (L.) Beauv. in Japan. *J. Japanese Grassl. Sci.* 35, 164–171.
- Tominaga T. *et al.* 1989b. Intra- and Inter-populational variation of *Imperata cylindrica* var. *koenigii* on Kii-Ohshima island of Japan. *Weed Res. Japan*. 34, 273–279.
- 富永達ら 2007. 雑草モノグラフ 5. チガヤ (*Imperata cylindrica* (L.) Beauv.). 雑草研究 52, 17–27.
- Yamada S. and Nemoto M. 2016. Effects of bare-ground revegetation techniques using *Imperata cylindrica* on changes in the plant cover and species richness during early succession. *Open J. Ecol.* 6, 471–483.
- 保田謙太郎・芝山秀次郎 2006. イネ科植物における葉緑体ゲノムの非コード領域のDNAを増幅するプライマー. 雑草研究 51, 146–151.

田畑の草種

庭石菖 (ニワゼキショウ)

小学校の門の前は公園であった。公園といっても遊具があるわけでもなく、「M公園」と書かれたコンクリートの門柱があり、1mほどの高さのフェンスで囲われているだけで、そのフェンスもあちこちで破れて穴が開いていた。公園の奥の隅が周りより少し高い小山になっていて、男の子たちはそこから自転車で走り下りたりして遊んでいた。公園の中はそんな子ども達が走り回るところだけ踏まれて硬くなり草は生えていなかった。

もう半世紀以上も前、小学校の5,6年生の頃だっただろうか、友達たちとその公園で遊んでいた。公園の小山の向こうには小さな釣り堀があり、小山の上から釣りをする人の釣り竿を眺めていた。何気なく目を上げた時、家々の屋根の向こうに今まで気が付かなかった背の高い煙突が見えた。「あの煙突はなんだ。いつも行く銭湯の煙突ではないぞ」ということで、何人か連れ立って自転車で見に行っただけであった。

それから半世紀以上が過ぎ、再びその公園を訪ねてみた。釣り堀は埋め立てられ一部は公園になっていた。もっと高いと思っていた小山も存外低いものであった。その小山に登っても、周りに立派な家が立ち並び、煙突は見えなくなっていた。小学生の時に辿った道を思い出しながら煙突を探した。

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

その煙突は半世紀前と変わらずにそこにあった。その「赤い」煙突は、今は使われていないようだが酒造会社の煙突であった。やすたけまり氏の現代の口語短歌にこんな歌がある。

ゆれていたニワゼキショウもスズガヤも酒屋のあかい煙突の下

今ではすっかり街に埋もれてしまった煙突であるが、半世紀前にはあの煙突の下にもニワゼキショウが咲いていたのだろうか。ちなみに「スズガヤ」は「ヒメコバンソウ」のこと。

ニワゼキショウはアヤメ科ニワゼキショウ属の多年草または一年草。北米原産の帰化植物。牧野富太郎によると明治時代に実験用として小石川植物園に導入されたものが逃げ出したとされるが、北米から非意図的に入ってきたともいわれる。全国の芝地、路傍、空き地など、日当たりの良い場所で生育。背丈は10cm～20cmで葉の基部は扁平で茎も扁平。茎の先に細い花柄を出し5月～6月に1.5cmほどの花をつける。花被片は6枚で白色あるいは赤紫色、濃い色の筋があり中心部は黄色。花色はメンデルの法則にしたがい、白色が顕性、赤紫色が潜性だという。花は受粉すると1日で萎む。数株で咲いていることは珍しく、芝地や背の低いイネ科植物の間などで群生して咲いているのを見ることが多い。